

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております)

2935号

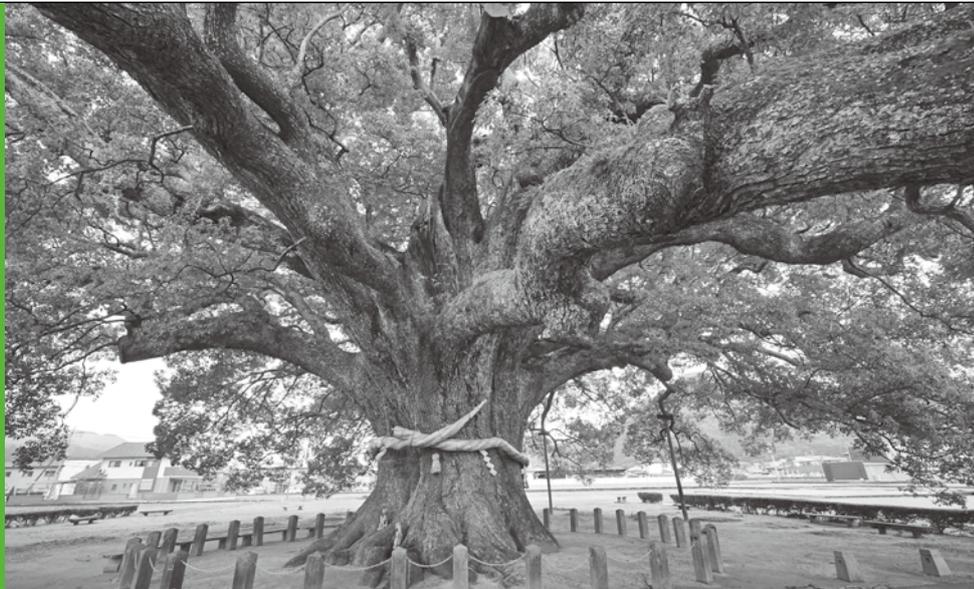
毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 石田直裕：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-47697

<http://www.zck.or.jp>

加茂の大クス (徳島県東みよし町)



もくじ			
随 想	情 報	フ ォ ー ラ ム	政 策
「利根の川風」…浪曲はこのころのふるさと…	町村Navi…	マラソンからはじまった地域づくり	一般財源総額確保が課題Ⅱ試算は62兆円、交付税16・4兆円Ⅱ
…千葉県町村会長・東庄町長 岩田 利雄…	…	2015大会は、ネットエントリーが22分で締切りに！…	…
(10)	(9)	(5)	(2)

コラム

福祉職の聴く力・語る技術

日本大学経済学部教授 沼尾 波子

地方創生の総合計画策定などに際し、地域の課題について、ワークショップ形式で住民が意見交換を行う機会が増えている。だが、初対面の人が集まり、話をするのは案外難しい。運営側の準備も大切だが、参加する住民の側にも力量が求められる。

先日、北海道滝上町で参加した町民懇談会は、福祉に関わる若者に声を掛けたユニークな会合だった。日ごろから役場主催の会合に顔を出す人に留まらず、幅広い年代や性別の人たちの意見を聴き、皆で議論したい。そう考えた役場職員が声を掛けたのが、高齢者や子どもとのケアに携わる若い世代の人たちだった。

彼らの大半は、もともと町の出身ではない。町内事業所に就職し、町民になった。だが、数年で再び他の地域に流出してしまうという。これではもったいない。なぜ若い福祉職の人たちは、数年で町を離れてしまうのか。そこに地域の課題を知るヒントがあるのではないか。そんなことも考えて声をかけたそう。

このワークショップは、新旧住民、老若男女が入り乱れて、大いに盛り上がった。そこでは、彼らの聴く力・語る技術が大きく貢献した。福祉職の人たちは、業務上、他人の話

◎写真キャプション◎
源平の頃から現在まで、町の歴史と共に成長を続けてきた大クス。樹齢1000年とされる老木ながら、落雷や暴風に耐え、美しい樹形を誇りながら今なお成長を続けている。天に向かって高々とそびえ、大空にゆったりと枝を広げた姿からは、老樹の持つ穏やかさや威厳が感じられる。

政策解説

一般財源総額確保が課題 ＝試算は62兆円、交付税16.4兆円＝

—2016年度総務省予算概算要求—

総務省の2016年度予算概算要求総額は、一般会計で15年度比1・0%増の16兆4、983億円となった。地方財政関係では、地方税や地方交付税など自治体が自由に用途を決めることができる一般財源の総額を0・8%増の62兆円程度と試算。自治体に配分する段階の地方交付税総額は、地方税収の伸びを受けて、2・0%減の16兆4、266億円とはじいた。

偏在是正で地方創生財源

同省は概算要求に合わせて、「16年度の地方財政の課題」と「16年度地方財政収支の仮試算」を公表した。地方財政の課題としては、一般財源総額確保と地方財政健全化を挙げている。6月に閣議決定された経済財政運営に関する「骨太の方針」では、国の財政健全化に向けた「経済・財政再生計画」が盛り込まれた。地方財政関連では、国の一般歳出の取り組みと基調を合わせつつ、15年度地方財政計画の一般財源総額の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保することが明記された。

同省はこれを踏まえ、地方の歳出の重点化と効率化に取り込むことを課題に掲げている。一方で、自治体は社会保障や地方創生など取り組むべき政策を多く抱えているため、財政運営に必要な一般財源総額の確保

も重点課題に位置付けている。

地方財政の課題の二つめとして地方創生を挙げた。15年度地方財政計画では、自治体が地域の実情に応じた人口減少対策などに取り組めるよう、「まち・ひと・しごと創生事業費」が創設された。今後も同事業費を計上していくためには、恒久財源の確保が欠かせない。同省は、地方法人課税の偏在是正を進めることなどを通じて財源を確保したい考えを提示した。

この他の課題としては、地方税の充実確保や自治体の業務改革を挙げた。

地方税は増加

地方財政収支の仮試算は、自治体が早い段階から次年度の地方財政の姿を想定できるよう策定するものだ。総務省が機械的に試算したもので、今後の状況の変化により、数値

が変動する可能性がある。

歳出のうち給与関係経費は0・5%増の20兆4、000億円とはじいた。国家公務員の給与引き上げを求めた8月の人事院勧告を踏まえ、地方公務員給与も同じように引き上げるとの前提を置いて計算したためだ。一方で、退職者数の減少により退職手当は減ると見込んだ。

一般行政経費は、高齢化に伴う社会保障費の増加のため1・6%増の35兆6、000億円。補助、単独ともに増える見込みを立てている。まち・ひと・しごと創生事業費は15年度と同じ1兆円と置いた。

歳出特別枠である「地域経済基盤強化・雇用等対策費」は8、000億円、投資的経費は11兆円と、15年度と同じ数値を仮置きした。歳出特別枠をめぐっては、財務省が廃止を求めているため、年末までの予算編成での争点の一つとなりそうだ。

「その他」は0・3%減の18兆円。近年の投資的経費の抑制により、地方債の元利償還金に充てる公債費が抑えられる基調にあるためだ。

歳入を見ると、地方税が3・6%増の38兆9、000億円。内閣府が7月に公表した経済財政の中長期試算で用いられた名目成長率などを使ってはじいた。地方譲与税は15・

政 策

1%減の2兆3、000億円。国税である地方人特別税から都道府県税である法人事業税への還元が16年度に平年度化され、その分地方人特別譲与税が減るため。

国庫支出金は、社会保障費の増が影響して1・4%増の13兆3、000億円。

地方債は1・9%減の9兆3、000億円。退職手当債が15年度で発行終了を予定していることと、臨時財政対策債が2・1%減の4兆4、000億円となることを見込んでいるため。骨太の方針を踏まえ、総務省は赤字地方債である臨時財政対策債の発行抑制にも努める考えだ。



地方交付税の算定基礎をみてみると、一般会計から交付税特別会計への入り口ベースの額が1・4%増の15兆6、301億円とはじいた。

内訳を見ると、国税4税(所得税、法人税、酒税、消費税)の決められた割合を交付税原資とする法定率分として6・4%増の14兆4、183億円。ここから08、09年度の減額精算分として1、811億円を差し引くと、7・0%増の14兆2、371億円。その結果、財源不足額は6兆

8、000億円程度を見込む。

財源不足に対しては、財源対策債や、既往債の元利償還金に充てる臨時財政対策債の発行、地方交付税法に基づく法定加算、別枠加算などを実施。法定加算は28・0%増の5、536億円、別枠加算は地方税収の増加を踏まえて、15年度の2、300億円を下回る700億円と仮置きした。この結果、国と地方による折半対象財源不足額は1兆5、000億円程度と見込んだ。国による臨時財政対策特別加算は7、693億円。

一般会計からの繰り入れを行った後、交付税特会で加算・減算を行った。自治体に配分する出口ベースの地方交付税総額が決まる。加算要素としては、税源偏在是正の一環として法人住民税の一部国税化した地方法人税が18・4%増の5、646億円。この他、地方公共団体金融機構の金利変動リスクに備えた公庫債権金利変動準備金2、000億円、前年度からの繰り越し5、903億円を活用する。一方で交付税特会借入金償還額4、000億円、特会借入金利子1、584億円が減算要因となる。差し引きで7、965億円を加算することになる。入り口ベースの額に足すと、出口ベースの額は16兆4、266億円となる。



総務省の一般会計要求額のうち地方交付税を除いた一般歳出は7・6%減の7、456億円。このうち恩給費は受給者の減少に伴い12・4%減の3、264億円。その他政策的経費は13・3%減の3、768億円。15年度の特種要因として、国勢調査にかかる費用や、16年1月に運用開始となる社会保障と税の共通番号(マイナンバー)の番号通知などに必要な経費などを計上したため、反動減を見込んだ。成長戦略関連施策などに予算を重点配分する特別枠へ424億円を要求した。

地方創生関連では、地域経済の足を強くすることを目的とした「地域経済好循環推進プロジェクト」として56億7、000万円(15年度27億5、000万円)を盛り込んだ。地域に雇用場をつくることで、人々を呼び込み、地域経済が好循環する形を狙うものだ。同省は同プロジェクトによって、国内総生産(GDP)を0・3〜0・4%押し上げる目標を立てている。

この中では、雇用吸収力の高い地域密着型事業を1万企業程度立ち上げる「ローカル10000プロジェクト」

クト」に40億5、000万円(同23億2、000万円)を要求した。市町村の創業支援事業計画に基づく取り組みを後押しする交付金の増額を求めている。

バイオマスや風力、廃棄物といった地域資源を活用してエネルギーを創出する「分散型エネルギーインフラプロジェクト」に7億円(同2億4、000万円)を計上した。自治体を中心となって、工場やオフィスビルといった電力消費者、地域エネルギー会社、金融機関が連携して地域のエネルギー事業を立ち上げる取り組みを支援する。

公園や図書館といった自治体が保有する公共施設を改良して、民間企業などのビジネス拠点として生まれ変わらせるオープンリノベーションに取り組む経費として5億円(同6、000万円)を盛り込んだ。

地域経済好循環推進プロジェクトの他には、地域ごとに産業の様子を分析して自治体にデータを提供し、各地の政策づくりに役立ててもらおう取り組みとして1億6、000万円を新規要求した。地方創生施策に力を入れる自治体を側面から支援する狙いだ。

地域の自立促進に向けた事業には8億円(同4億7、000万円)を

政 策

計上した。都市から過疎地域に移り住んだ人に委嘱する「地域おこし協力隊」の推進などに充てる。

近隣自治体が相互連携する「連携中枢都市圏」「定住自立圏」の推進に向け、11億8、000万円(同6億1、000万円)を要求した。中山間地域などで、基幹集落と周辺の集落をひとつのまとまりとする「集落ネットワーク圏」形成にも取り組む。

自衛隊や在日米軍が所在する市町村への基地交付金と調整交付金として355億4、000万円(同345億4、000万円)を計上した。

情報通信関連では、条件不利地域などでの情報通信技術(ICT)基盤整備に100億9、000万円(同73億9、000万円)を要求した。光ファイバーなどの高速プロードバンドを整備する自治体に補助する。過疎地で携帯電話基地局施設を整備する市町村にも補助を行う。

ふるさとにしながらパソコンなどで仕事をする「ふるさとテレワーク」を推進する新規事業に9億円を充てる。

放送コンテンツの海外展開に向けた事業を実施するための経費として17億円を新たに盛り込んだ。放送会社と自治体のほか、観光業、地場産業などの関係者が協力して、放送コ

ンテンツをつくり、発信する取り組みを支援する。



マイナンバー関連事業には204億3、000万円(同617億8、000万円)を投じる。これに加えて、日本年金機構における個人情報流出問題を踏まえ、地方の情報セキュリティ強化事業を事項要求した。予算編成過程で具体的な内容を検討する。

消防関係では、20年東京五輪・パラリンピックに備えた安心・安全対策推進へ4億5、000万円(同2億2、000万円)を計上した。大規模イベント開催時の危機管理体制を充実するため、短時間に大量の除染が可能で「大型除染システム搭載車」、多数の人が人を収容できる特殊救急自動車「スーパーアンビュランス」などを整備する。また、日本を訪れる外国人が増えることを見込まれるため、多言語音声翻訳システムを活用した次世代救急車の研究開発などにも取り組む。

選挙関係では、来夏にも予定される参院選にかかる経費を賄うため534億8、000万円を要求した。(時事通信社内政部 増淵慶彦)



地方公共団体金融機構(JFM)は全自治体の出資による「地方の、地方による、地方のための」共同機関です。

特徴 1 全ての都道府県及び市区町村が出資しています

地方公共団体が共同で資金調達を行うための機関です。

特徴 2 長期・低利の資金を提供しています

期間は最長40年、利率は財政融資資金と同率※でお貸ししています。このための財源として、公営競技納付金を活用しています。 ※機構特別利率対象事業(平成27年8月時点)

特徴 3 “地方金融機構債”は安全性の極めて高い債券です

強固な財務基盤を背景に信用力が極めて高く、格付けは国債と同じ国内最高水準※です。5年、10年、20年債のほか投資家のニーズに応じた様々な年限による債券を発行しています。投資資金は地域の事業等に活かされます。 ※平成27年8月時点

特徴 4 「より良い資金調達・資金運用」のお手伝いをします

財政、金融、会計等に関する研修(出前講座、宿泊型研修、入門研修等)を実施するほか、金融専門知識、実務経験を有する自治体ファイナンス・アドバイザーが助言などを行っています。

債券ご購入時等の留意事項について

当機構の資金調達計画を含めた将来的な見通しは、現時点で当機構が得ている情報に基づくものであり、潜在的なリスクと不確実性を含んでいるため、マーケットの動向や経済状況、法令といった様々な要因により、将来の状況はこの資料の記載とは異なる可能性があります。そのため、投資家の皆様におかれましては、慎重に判断し、リスク等に十分に留意した上でご購入等されることをお奨めいたします。

詳しくは当機構HPをご覧ください。 >>> http://www.jfm.go.jp



フォーラム

▽いびがわマラソンのまち「全国ランニング100選18年連続選出(最多)」



現地レポート

町村独自のまちづくり

マラソンからはじまった地域づくり

2015大会は、ネットエントリーが22分で締切りに！



揖斐川町の概要

揖斐川町は、岐阜県の最西部に位置し、北は福井県、西は滋賀県に接しています。面積は803.44km²で、東西方向約20km、南北方向約35km、南北に長い形をしています。総面積のうち、森林が91.1%を占め、標高1、100m～1,300m前後の山々がそびえ、

岐阜県

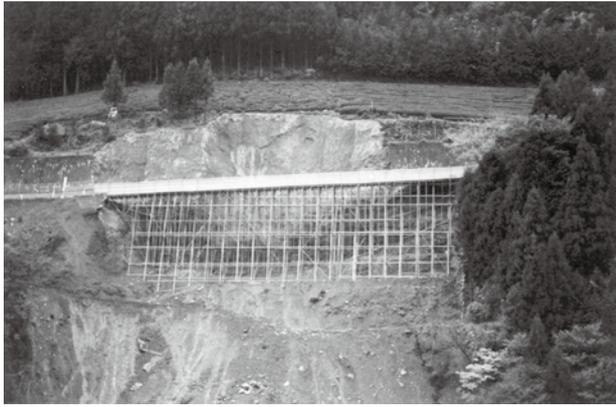
いびがわ ちよう 揖斐川町

山間を縫うように揖斐川やその支流根尾川、粕川などが流れています。平坦部の夏は高温多湿ですが、山間部の冬は厳しく、積雪量が1mを超える地域もあります。

町の中央を流れる揖斐川は、福井県との県境に位置する冠山に源を発し、山間渓谷を貫き、肥沃な濃尾平野を流れ、伊勢湾に注ぎます。この地に住む人は昔から川の恵みを楽しみ、時には水害に苦しめられ、川とともに暮らしてきました。この揖斐川をせき止めて建設されたのが、日本一の総貯水容量を誇る徳山ダムです。その貯水量は浜名湖の約2倍の6億6,000万m³で、ダム堤頂の長さ(新幹線「のぞみ号」の16車両(400m))を超える427mあり、新たな観光資源としても注目されています。

谷汲山華厳寺は「谷汲さん」の愛称で親しまれ、「西国三十三カ所巡礼」の第三十三番札所で結願の寺として多

フォーラム



△立派な架け橋で、なんとか大会が開催できる

マラソンは屋外での競技のため、天候にも左右されます。第3回大会は雷に大雨でコースはぐちゃぐちゃになり

警察から許可を得ました。

マラソンは屋外での競技のため、天候にも左右されます。第3回大会は雷に大雨でコースはぐちゃぐちゃになり

警察から許可を得ました。

マラソンは屋外での競技のため、天候にも左右されます。第3回大会は雷に大雨でコースはぐちゃぐちゃになり

警察から許可を得ました。

マラソンは屋外での競技のため、天候にも左右されます。第3回大会は雷に大雨でコースはぐちゃぐちゃになり

警察から許可を得ました。

マラソンは屋外での競技のため、天候にも左右されます。第3回大会は雷に大雨でコースはぐちゃぐちゃになり

警察から許可を得ました。

マラソンは屋外での競技のため、天候にも左右されます。第3回大会は雷に大雨でコースはぐちゃぐちゃになり

いびがわマラソンのほじまろと歴史

バブル景気に沸いていた昭和の終わり頃、全国各地で地域おこしのイベントが盛んに生まれていました。「揖斐川で何かをしたい」「揖斐の名前を広めたい」「町を元気にしたい」という

くの参拝客が訪れます。そして、最近注目をあびるスポットとして、さざれ石公園があります。「君が代」に詠まれるさざれ石が奉られ、国歌発祥の地としても名高く、パワースポットとしても人気を得ています。揖斐川町は平成の合併時に近隣の一町五村が合併し、新揖斐川町が誕生、本年で「合併十周年」を迎えました。

町の思惑にぴったりだったのが、マラソン大会でした。

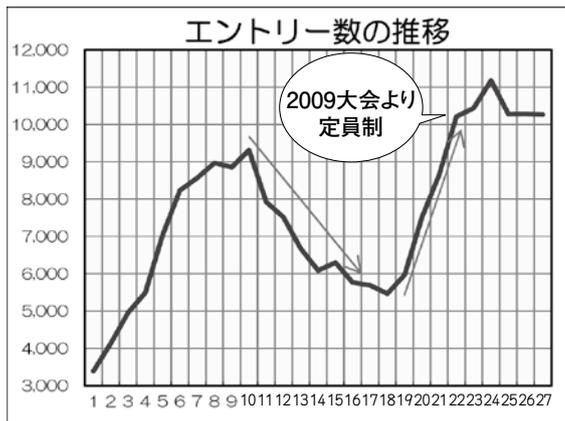
陸連の公認コースを得るために、50mのワイヤーメジャーを使って、全コースを歩いて計測するという地道な作業が続きました。今ほどマラソンがメジャーでなかったこともあり、準備を進めながらも不安が募りました。高低差127mという厳しいコースに、「ランナーは集まるのか?」「給水は?」「スポンサーは?」手さぐりで準備を進め、1988年11月、3、392名のランナーと800名のボランティアが集まり、東海地区最大のフルマラソン大会の幕が開きました。今では名前を知られる大会になった「いびがわマラソン」も、これまでの道のりは平坦ではありませんでした。歴史を振り返りながらご紹介いたします。

いびがわマラソンの魅力は、美しい自然の中を駆け抜けるという点です。その反面、自然災害とも隣合わせです。第2回大会では大会2カ月前に大雨で道が抜け落ちて、コースが寸断されました。中止が検討される中、地元の方々が、なんとかランナーを迎えたいと仮設の橋を架けたのです。命がけの突貫工事だったことでしょう。パトカーで仮設の橋を渡ってもらい、警察から許可を得ました。

ました。ランナーはもちろん、1、000名のボランティアみんながびしょぬれで寒さに震えました。27回の大会開催の内、雨の大会は7回でしたがランナーにとっては自然の厳しさを味わったり、ボランティアの皆さんへの感謝の気持ちが深まったりと、第3回大会はいつまでも心に残る大会になりました。

ランナーのエントリー数は、時代背景とも重なります。10回(1997年)大会まではランニングブームもありどんどん増えていき、9、000人を超えました。しかしその後、景気の下降とともに毎年1割以上ランナーが減り続け、18回(2005年)大会には5、500人となりました。当時はランナー数の減少で、全国の多くの主催者が大会を打ち切るようになっていきま

した。そんな厳しい状況の中、事務局では「いびがわ」は何がダメで何が足りないのかを探るため、ランナーに人気のある大会に出向き見て歩きました。ランナーに人気の大会は、県や大きな都市が主催となり、メイン会場はドームや陸上競技場、そしてコースは広い道路を使っていて、ため息がでるほど立派でした。しかしいいなと思う半面、「いびがわ」も運営面やサービ



しい自然と温かい心」これがいびがわらしきだと実感しました。また、ランナーの皆さんと直接話をする事で「ランナーの気持ちになる」という根っこの部分にたどり着きました。この2つに気づくことが出来た私たちはやるべきことが明確になり、次の一歩が踏み出せたのです。

いびがわマラソンのほじまろを求めて

①地域資源を活かして

「民泊や地区公民館でおもてなし」宿泊所が少ないので民泊の輪を広め、全国のランナーを迎え入れよう。地域の公民館を解放しよう。大会当日の朝は地域のお母さんらが、完走祈おにぎりを作ってランナーを送り出します。

フォーラム



△あったかいみそスープは、体も心も温まります！

「4つのお楽しみバス」
大会当日、ランナーだけでなく、大勢の皆さんに揖斐川町を満喫してほしい。応援にきた家族や仲間も楽しんでほしいという思いから、会場から町の観光名所へ無料バスを運行。また、ランナーを直接応援したいとの声から、フルマラソンの中間地点へ応援バスを5台運行しました。山の中を走るランナーは苦しい場所で大きな声援を受け、後半も頑張れると人気です。

「いび茶とみそスープ」

山の中は走っていると寒いとの声から、地元の名産を使ったあたたかいものを提供するエイドを用意しました。ホットとステーションでは、美味しい

び茶を、そしておつかさんステーションでは、地元の手作り味噌を使ったみそスープを。いずれも大人気で、その場所にたどり着くことを目標にするランナーもいます。

②ランナーの思いにたつて

「マラソンバスGOGO!」

アクセスが悪い面を考慮し、名古屋駅や三重、福井といったランナーの街から、会場までの直行バスを運行。渋滞に悩まされたり、疲れた体で運転したりしなくても楽々です。会場の中では、バスが更衣室と荷物預かりも兼ねていて、混み合った会場でのストレスもなく、何より安心です。今では大型バス14台、6000人を超える方が利用されています。

「選べる記念品」

参加賞は決まったものという概念を取り払い、Tシャツ・ラングッツ・特産品から選ぶことができます。このほかにも、記念品なしで500円引きというサービスも用意しました。

「お茶目大賞」

仮装して走りたいという声から、お茶目大賞と題してランナーを募集。自分を楽しむだけでなく、沿道で応援する人を楽しませた方を表彰します。毎年、大勢の方が参加し、子どもたちや地域の方の応援する楽しみにもなっ

ています。

「金コーチのマラソン教室」

初心者の方でもいびがわマラソンに参加できるよう応援し、マラソンの輪を広げてほしいという思いから、全5回の教室を開催。4つのレベル別に市民マラソンの名コーチ金哲彦さんにプロデュースをお願いしました。100名限定の教室は、申込み開始直後に定員に達するほど人気です。

「町じゅうをあげての応援」

走っている時のランナーは、自身との戦いでとても孤独です。だからこそ、沿道の応援が身に沁みます。いびがわ大応援団を募集。よさこい踊り・ブラスバンド・和太鼓、沿道では、園児や小中学生が、ランナーにパワーをおくるため、アイデア応援を繰り広げます。また、あちこちに現れる私設エイドもお楽しみです。

③町をひとつに

ランナーの思いに立った企画を進めるとともに、運営側の気持ちも一つにしたいと願いました。第19回(2006年)大会からは、大会長である町長が「おもてなしの心で」という言葉を随所に用いて、親戚の人を迎え入れるような思いで、全国の人をお迎えしようと呼びかけました。大会を支えるボランティア1,800名に声をか



△ハイタッチは、いびがわの名物に

マラソンが生み出す効果

「子どもたちの郷土愛を育む」
いびがわマラソンは、子どもたちにとっても年に一度の大切な日です。いびがわマラソンを通じて、町の一品として全国のランナーをもてなし、大会をささえ、創り上げていきます。子どもたちは、事前にマラソンの歴史やランナーの思いを学んだり、ボランティアとして活躍する人の声を聞いたりして大会を迎えます。

「子どもたちの郷土愛を育む」

いびがわマラソンは、子どもたちにとっても年に一度の大切な日です。いびがわマラソンを通じて、町の一品として全国のランナーをもてなし、大会をささえ、創り上げていきます。子どもたちは、事前にマラソンの歴史やランナーの思いを学んだり、ボランティアとして活躍する人の声を聞いたりして大会を迎えます。

フォーラム

△冊子には、子どもの声がいっぱい



に職場体験にやってきた子どもたちが、町の人がみんなで作っていることを知り、大会に誇りを感じ「町の宝物」に気付くというものです。これは実際の話で、いびがわの宝物をこれからも引き継いでいってほしいものです。

「恋もマラソンもゴールをめざせ！ラン婚」

全国から大勢のランナーが集まるマラソンと町の婚活事業がコラボした企画が「ランニング&婚活」、ラン婚です。全7回にわたるラン婚は、毎回金コーチのマラソン教室と同時開催し、トレーニングを終えた後に対象者が残り、婚活事業が催されます。参加者は、マラソンでゴールをめざすという同じ目標に向かうこともあり、話も進み距離も縮まっていきます。今年で3年目になるほどの人気を得ています。

「揖斐川町を応援、ふるさと納税」

マラソンがもたらした新たな効果として、ふるさと納税による町への寄附金があります。町の一番の自慢を体感してもらいたいと十万円を寄附された方に出走権をお渡ししています。想定より大勢の方にお申込みをいただき、感謝しています。

姉妹マラソン「セントジョージマラソン」

第2回大会から、アメリカカユタ州、セントジョージマラソンと交流をしています。それぞれの優秀選手を招待すると共に、毎年、中学生が派遣団を結成し、現地をおとすれ、両国の文化や風土について理解し合い、国際感覚をみがいでいます。

「わが町の地域ひろ」

マラソンは、岐阜の小さな町にひとつのきっかけを作りました。それは、いびがわという名前を全国に発信したこと、そして町の人が自分たちの町の自慢をみつけたことです。そして、その一歩は、地域資源を活かして、名物を作り、観光地へ人を運び、婚活やふるさと納税で、他の土地から揖斐川町への人の動きを生みだしました。揖斐川町は、高齢化率34・5%、子どもの数も減っています。また、山間部を中心に深刻な過疎化も進んでおり、多くの課題も抱えています。

年に一度のマラソンを活かして、全国のランナーとの繋がりを深め、元気で温かい揖斐川町を第2の故郷と思ってもらえるよう、次の2歩3歩を踏み出していきます。おもてなしのノウハウや、町がひとつになる一体感を知っている町の人だからこそ、できることは広がっています。町の中でふつふつと湧いてきている動きを広がっていきたくて湧いてきています。過疎化で人は減っていますが、町を元気にしたいと思っています。人をどんどん増やし、いわゆる活動人口をふやして生きがいのある地域づくりを進めていきます。

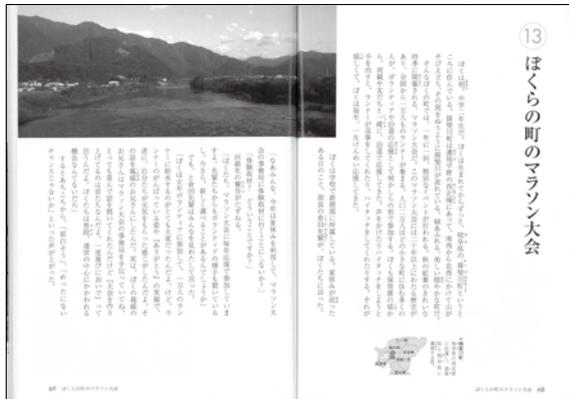
揖斐川町教育委員会
スポーツ振興課

そして、一人ひとりが精一杯ランナーをもてなします。大会後にはランナーから寄せられる声を受け、ランナーへお手紙や絵を寄せます。その手紙や絵は、完走証とともにランナーへ届けます。心と心のキャッチボールと題したこの企画は、マラソンを通じて子どもとランナーの繋がりを深めていきます。マラソンを自分たちの宝物、町の自慢として誇らしげに話してもらいたいと願っています。

「道徳の副読本に」

平成24年春、東京の出版社発行の「道徳の副読本」で、いびがわマラソンの話が8ページにわたり掲載されました。

内容は、いびがわマラソン事務局



△道徳の本に掲載「ぼくらの町のマラソン大会」

随 想

千葉県町村会長・東庄町長 岩田 利雄

「利根の川風」

…浪曲はこころのふるまひ…



水と緑と歴史に彩られた東庄町は、昭和30年7月20日、神代村、笹川町、橋村、東城村の一町三村が合併し、誕生しました。

昔、この地域が東庄（東荘）と呼ばれる荘園であったことが、町名の由来であり、東庄町の誇り・財産は、たくさんあります。豊かな水をたたえた利根川と黒部川、生息する希少な鳥コジュリン、東氏の居城とされた須賀山城址や東大社、諏訪神社、延命寺などの由緒ある社寺。天保水滸伝の史話を今に伝える遺跡や遺品。古くから脈々と続く祭礼や四季折々の行事。そして、一万五千町民の交流と人情…。

東庄町の個性を一言で表すとしたら「人情に厚いまち」。私が、40年前に帰郷して真っ先に感じたのも、その後、町政を担う私をずっと支え

てくれたのも、人と人との出会い、結びつきでした。四方を大きな市に囲まれた小さな町が、様々な施策を次々と実現できたのは、町民の結束力があつたからにはかなりません。我が家の神棚には今でも、54年前、私が14歳の時に他界した父親の遺したラジオが置いてあります。子ども

の頃このラジオからは、父親の好きだった歌謡曲や浪曲がいつもながれていました。「浪曲はこころのふるまひ」と、私の心の中には、当時の歌謡曲や浪曲がいつもながれていま

す。町長に就任当初、東庄町笹川で「天保水滸伝」を唸ったのは、日本浪曲協会会長の三代目玉川勝太郎師匠でした。今でもはつきりと覚えていることは、「利根の川風袂にいられて月に掉さす…」の唄い出しに何度も

アンコールと声がかかり、先に進まなかったこと。「こんなに唄い出しでアンコールの声がかかったのは、笹川がはじめて」と勝太郎師匠が言われました。その後勝太郎師匠との再会は叶わなかったものの、天保水滸伝の舞台、東庄町笹川を全国に広めて下さった師匠に感謝しております。

本年は、東庄町が誕生して60周年の節目の年を迎えました。

新しい目標や希望を見据えながらも、全国的な少子高齢化の波のなか、難しい舵取りを迫られる時代に入っています。しかし、そこで一番の力となるのは、人です。ふるさとを大切に思う町民がいる限り、今後もどこよりも魅力的なまちづくりをしていけると確信しています。

7月20日の町制施行60周年記念浪曲会では、浪曲による町おこしを図る「大利根にぎわい座」の皆さんに協力をいただき、大入り満席の公民館大ホールで、玉川太福さん、玉川奈々福さんに「天保水滸伝」を唸っていただきました。渾身の唸りに元気をもらいました。人情を語る浪曲、これからも町民のみなさまに浪曲を愛し、楽しんで聞いていただきたい。

町の「宝」、それは、何と云っても子どもたち。子どもたちが、すくすくと育つ町。今後はとくに、子どもたちの教育に力を入れていきたい。子どもが少ない町だからこそできるユニークな教育で、子どもたちがどういう生き方を選び、世界のどこで活躍するとしても、「この町に生まれて良かった」と思える人づくりをすることが私の理想です。

大好きな東庄町。何が本当に町民の皆さんにとって重要なものか、又、真のサービスであるかを見極めながら、さらに足腰の強い自治体の確立に努力していかなければならぬ。今後とも人の結びつきを強みとして、今、住んでいる人を大事に、「小さい町だからこそできるまちづくり」を信念として、人情味あふれる温かいまちづくりをしていきたい。

「利根の川風」…浪曲はこころのふるさと…、岩田利雄オフィシャルブログのタイトルでもあります。一番大事なものは、人。心のふるさとと言つのは、原点に返ろうということ…。一度、東庄町をお訪ねいただきませう。

TIME of RELAXING

「ゆとり」と「やすらぎ」のひとつとき

静かさと心地よさに配慮し、室内インテリア全体を落ち着いた雰囲気にとまどめ、ゆったりとしたやすらぎのひとつときをお届けいたします。

<http://www.zck.or.jp/kaikan/index.html>

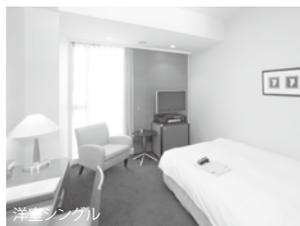


土・日・祝日は リーズナブルに

土・日・祝日のご宿泊は、
平日料金の **20%OFF**

金曜日のご宿泊は、
平日料金の **15%OFF**

和室もございますのでお問い合わせ下さい。
禁煙ルームをご用意しております。



シングル 119 室
平日料金 10,100 円より **SINGLE ROOM**

金曜日料金

15% OFF 8,600 円より

土・日・祝日料金

20% OFF 8,100 円より



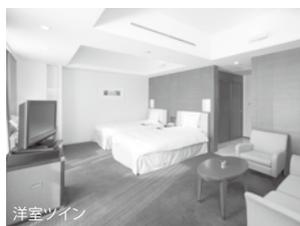
ダブル 12 室
平日料金 13,700 円 **DOUBLE ROOM**
(2名利用) ※1名利用の場合 11,400 円

金曜日料金

15% OFF 11,600 円
※1名利用の場合 9,600 円

土・日・祝日料金

20% OFF 10,900 円
※1名利用の場合 9,000 円



ツイン 17 室
平日料金 19,000 円より **TWIN ROOM**
(2名利用)

金曜日料金

15% OFF 16,200 円より

土・日・祝日料金

20% OFF 15,200 円より



会議室・宴会場

2階には広さと設備が多様な、大小4つのホール、会議室。高い機能性を持ち、さまざまな演出が可能です。会議・研修、パーティーなどに幅広くご利用いただけます。



カジュアルレストラン「ペルラン」

ランチタイム 11:00 ~ 14:00
ティータイム 14:00 ~ 17:00
ディナータイム 17:00 ~ 22:00
(21:30 ラストオーダー)



和食処「さいかち」

ランチタイム 11:30 ~ 14:30
(14:00 ラストオーダー)
ディナータイム 17:00 ~ 22:00
(21:30 ラストオーダー)

*** さいから



全国町村会館

市町村職員共済組合等の宿泊助成券がご利用いただけます。

お電話でのご予約・お問い合わせは

TEL 03(3581)0471

FAX 03(3581)0220

〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号

WEBからのご宿泊予約は、特別料金(部屋数限定)がございます。

ホームページは

[全国町村会館](#)

[検索](#)

全国町村会館へのアクセスガイド

- 有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町」3番出口徒歩1分
- 丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩8分
- タクシー東京駅から約20分





車両共済(保険)のご案内

(一般自動車保険の車両保険)

この車両共済(保険)は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「**ご自身のおクルマの補償(車両保険)**」を追加する制度です。
お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済(保険)金をお支払いします。

町村生協の自動車共済にご加入の皆様なら!

- 無事故による割引で新規から **42%(保険料)割引**
 - ・ご加入を希望するお車が町村生協の自動車共済で過去3年無事故の場合は、ノンフリート等級9等級からスタートします。
- 集団扱年一括払いによる割引で更に **5%割引**
 - ・保険料分割払(12回)も選択可能です。
 - ・保険料分割払をご利用の場合は上記の集団扱年一括払の5%割引の適用はありません。

さらに 無料ロードサービスがついてきます。

ご契約のお車が、事故・故障で自力走行できなくなった場合、事前にロードアシスタンス専用デスクにご連絡ください。ロードアシスタンス業者にお取り次ぎし、レッカーや30分程度の緊急修理などを手配します。 ●バッテリー上がりや、キー閉じ込み、ガス欠など

- ・掛金(保険料)は、型式、初度登録年月、年齢条件、運転者限定特約の有無、共済(保険)金額、等級などにより異なります。
- ・このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容については取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

※この車両共済(保険)をご契約いただける方は、全国町村職員生活協同組合の自動車共済に加入されている方に限ります。

●お見積りのご請求・お申し込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください●

お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください

(受付時間 月～金 午前9時30分～午後5時)



0120-731-087
03-3519-7325

株式会社 千里 (取扱代理店)

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内

●ホームページアドレス <http://www.chisato-ag.co.jp>

- 「車両共済(保険)制度」は、全国町村職員生活協同組合と損害保険ジャパン日本興亜株式会社とが集団扱契約を締結し、実施しているものです。
- 集団扱としてご契約いただけるのは、保険契約者および被保険者が損保ジャパン日本興亜の定める条件を満たす場合のみとなります。詳細については、取扱代理店(千里)までお問い合わせください。

〔車両保険引受保険会社〕損害保険ジャパン日本興亜株式会社 〔損害保険ジャパン日本興亜株式会社〕は損保ジャパンと日本興亜損保が2014年9月1日に合併し誕生した会社です。

〔SJNK14-12003(2014.11.21作成)〕